

放課後等デイサービス事業所での支援・活動のアイデア

買い物

買い物のスキルは、将来自立した生活を送るうえでとても重要なライフスキルの1つです。今回は、買い物スキルを獲得することができるよう、お子さんに合わせて様々な支援を行ったので紹介します。

買い物のスキルを評価する

買い物スキルを獲得するにあたって、現在獲得しているスキルがどの程度なのか評価することが大切です。秩父学園では、課題分析を行い評価します。課題分析は、買い物の流れを細かくいくつかの行動に分け、何ができているのか、どこにつまずいているのかを整理することができます。教えようとする行動が具体的になります。

まず、買い物の課題分析表を作成し、事前に保護者の方に3段階（できる・援助があればできる・できない）で評価してもらったものを基に支援を組み立てていきます。どの程度環境設定が必要かを考え、買い物先をコンビニエンスストア、商品が少ないお店（駄菓子屋）、室内に作った模擬店の中からお子さんに合わせて選びます。

支援は、課題分析の評価に基づいて、手順、商品の選択、金銭授受などの方法を検討し、一人で買い物することができるよう目指していきます。買い物終了後には、課題分析表でチェックして、援助が必要な項目を見直すことで、より自立的な行動を増やしていけるでしょう。

項目	評価
1. 商品を確認する	
2. 商品を選ぶ	
3. 商品を支払う	
4. 商品を受け取る	
5. 商品を確認する	
6. 商品を選ぶ	
7. 商品を支払う	
8. 商品を受け取る	
9. 商品を確認する	
10. 商品を選ぶ	
11. 商品を支払う	
12. 商品を受け取る	

図1. 買い物 課題分析表

買い物支援のいろいろ

●写真、ipadで買う物を選択する

お菓子などを買いに行くと、お店で商品を前にして選ぶことも一つの楽しみです。しかし、たくさんの商品から、何を買ったらよいかわからなくなってしまってお子さんには、事前に選択肢の中から、買いたい物を決めてもらってから出発しています。

見て理解することが得意なお子さんは、写真や絵、お菓子のパッケージなどを使い、買う物を選択してもらいます。タブレット等の操作が得意なお子さんには、VOCAアプリ（絵カードアイコンや撮影した写真を使って音声付きのシンボルを作ることができる）を使用しています。操作自体シンプルですし、本人が意欲的に選択することができるところがとても魅力です。



図2. ipadで商品を選択

●手順書を使用する

買い物の手続きに援助が必要なお子さんには、手順書を使用して、どのような順番で買い物を進めればよいのか、視覚的に提示します。買い物の手順書は、入店前に確認するとともに、お財布に付ける等していつでも手順を確認できるようにしています。



図3. 買い物の手順書

●約束を説明する

楽しく買い物をするためには、出発前に約束を確認することが大切です。もし買い物の途中で「これは買えません」「3個までにしてください」などと注意を受けたら、子ども達は嫌な気持ちになるのではないのでしょうか。

そこで、どんなものを買っていいのか、いくつ買っていいのかといった約束を事前に確認してから活動を開始します。口頭で確認するだけでなく、視覚教材を使用して伝えると、よく理解できて納得して約束を守ることができます。事前に約束を確認することで、子どもたちもどのように行動したら良いか分かり、成功体験につながると思います。



●金銭授受

お金のやりとりが出来るお子さんには、机上の学習を行います。チラシやお金の現物を使って模擬体験を積み、実際の買い物に必要なスキルを高めます。

①「金額の表示はどこを見ればいいのかを知る」

税込や税抜き等、いろいろな表示があることを知ります。

②「紙に書いて計算をする」

将来、自立的な生活を送る際に必要なので、書く習慣をつけると良いと思います。

③「お金を扱う」

お金の種類がわかる・同額でも様々な種類の硬貨を使って支払えることがわかる・合計額の概算がわかる等、それぞれのお子さんのスキルに合わせて支払い方法を学びます。

④「電卓を使用する」

実際の買い物場面に般化できます。

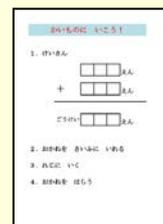


図4. 買い物の課題

図5. 買い物の手順書



コンビニエンスストアやスーパーなどでは、魅力的な商品が数多く陳列されています。買い物の経験の少ないお子さんや、たくさんの刺激に影響を受けやすいお子さんは、買い物のやり方をスムーズに習得できないこともあります。

そこで秩父学園では、子どもの持っているスキルで、買い物が行えるよう模擬店を作り、買い物の支援を行っています。模擬店での買い物を通して、「自分でできた」「買い物って楽しい」と思える経験を積みながら、コンビニエンスストアやスーパーなどの利用を目指しています。



<模擬店の環境設定>

子どもが自立的に移動して買い物ができるように、動線に配慮して商品やレジを配置します。商品は、子どもが目的の物をえらぶことができるよう、陳列する商品は少なくして、本人にとって関心の強すぎないものを陳列します。気になる物や刺激は隠す等して、環境を整えることも大切です。

